

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市子ども夢パーク	評価対象年度	平成31年度
事業者名	・事業者名 川崎市子ども夢パーク共同運営事業体 ・代表者名 公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長 渡邊 直美 川崎市中原区今井南町28-41 ・構成員名 特定非営利活動法人 フリースペースたまりば 理事長 西野 博之 川崎市高津区千年435-10	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数:88,963人 (平成30年度:87,103人)	②年間延べ利用団体数:731団体 (平成30年度:755団体)
収支実績	1 収入 単位:円 指定管理料 76,499,000 雑収入 0 補償金 6,690 合計 76,505,690 2 支出 人件費・賃金 43,257,015 光熱水費 3,067,015 委託費 8,783,696 消耗品費 2,842,242 修繕費 2,922,918 その他経費 15,257,817 合計 76,130,703 3 差引 374,987	
サービス向上の取組	「川崎市子どもの権利に関する条例」の理念に基づいた事業執行のため、行政機関や地域団体等との連携を図るとともに、利用者ニーズを事業運営に反映させるなどサービス向上に取り組んだ。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	条例の理念の実現	川崎市子どもの権利に関する条例の理念(子どもの参加の促進、子どもの居場所の確保等)の実現が図られているか。	5	5	5
(評価の理由) 事業推進については、冒険遊び場(プレーパーク)事業において、子どもたちの「やってみよう」という気持ちを大切に、遊びを制限するような禁止事項をできるだけつくらず、子どもが自分で決めたり危険を判断したりできるようになることを大切に遊びを支援した。また、不登校児童生徒の居場所事業において、いつでも、どこでも、誰でも学べるという生涯学習の視点に立ち、誰もが安心して過ごせる不登校児童生徒の居場所「フリースペースえん」を運営した。特に今年度は、9月から新たに「ゆるりであそぼう、話そう会」として、保護者の不安の解消や親子の出会いの場を目指して元保育士のボランティアが、乳幼児親子向けに絵本の読み聞かせや手遊び、育児に関する相談を受けるなど特色のある取組を行った。 事業成果については、利用者数が、前指定管理時平均(88,839人)並みの88,963人だった。 条例の理念の実現については、子どものSOSをキャッチできる環境、関係機関やネットワークに子どもをつなげていける環境など子どもたちが安心して過ごすことができる環境を整えるとともに、積極的に子どもが参画できる「子どもの居場所」の実現に向けて、スタッフの研修題材として「子ども参画」を取り上げてグループワークなどで理解を深め、認識と現状把握をするなどスタッフの力量向上等に力を入れた。特に今年度は、子どもの権利の日事業において、子どもからの意見表明や発案の場として、11月6日から11月20日まで「みんなの声」掲示板を作成し、子どもが声を出しやすい環境を整備した。また、「フリースペースえん」では、講師を招いて「みんなで語ろう『子どもの権利』」を開催し、子どもたちと共に子どもの権利に関するワークショップを行い、7つの権利について考えるなどの取組を行った。					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
(評価の理由) 適正な人員配置については、利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員を計画どおりに採用・配置している。 職員の研修体制については、夢パークの理念の研修、プレーリーダーの養成研修など子どもの最善の利益を優先し、子どもの権利を全面的に保障することを目的とした運営のための研修を年度内に76回実施した。特に今年度は、内部研修として年間を通して実施した「子ども参画」についての内容を活かし、「こどもゆめ横丁」において出店以外の企画や運営側にまわりたい子どもたちが集まり、「横丁楽しくしよう会(YTK)」としての活動ができるよう必要な支援をするなど研修の成果を事業運営に反映した。 個人情報等の取扱については、個人情報保護方針が整備されるとともに、個人情報保護責任者が設置されており、個人情報漏洩等のトラブルがなかった。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	5	10
把握したニーズが事業運営へ反映されているか					
(評価の理由) 施設・事業の広報については、夢パークの理念や活動の様子、イベント情報などを広く子どもや市民に周知するため、広報紙等の発行と配布、ホームページの情報の充実、施設内の掲示板を用いた利用者へのイベントの告知や企画の呼びかけ、子育てネットワーク等のイベントでの広報などの取組を行った。また、イベント情報は新聞やテレビ各社に取材、広報依頼し、イベントの趣旨や子どもたちの様子などを広く知ってもらうよう努めるなど積極的に行っている。 利用者への対応については、傾聴のスタンスを基本としながら適切な態度、言葉で接することで良好な接遇が図られ、利用者からの要望に適切に対応した。 学校及び行政機関との連携については、地元町内会との意見交換会を開催し、それぞれの年間計画や課題等を共有することで互いの主催イベントで相互に連携、協力して継続的に交流しているほか、積極的にボランティアの育成及び確保の機会を設け、ボランティアの有効活用を図った。また、地元の小中学校への訪問、交流、遠足等の受け入れ、講師としての登壇、文部科学省による会議等への参加、川崎市・高津区の施策にかかわる会議への参加(特に、高津区子ども・子育てネットワークでは所長が委員長を務めた。)、子どものセーフティネット構築における関係機関との協働、連携など多方面において積極的な連携強化が図られている。 利用者ニーズについては、毎月、利用者懇談会を開催し、夢パーク利用者の声を聞く機会を設けるとともに、イベント時にアンケートを実施して満足度調査を行い、利用者の意見・要望等を適宜調査することで積極的に把握を行った。スタジオ利用者による運営委員会を一年を通して随時開催し、1コマの時間、予約方法などスタジオの使い方やスタジオ利用者ライブなどイベントについて子どもが主体となって行った。夢パーク最大の子ども参加イベント「こどもゆめ横丁」に向けて、当日の企画、運営に関する話し合いを行い、子どもの声を活かしたイベント開催に努めたほか、特に今年度は、「横丁に出店する以外の形で参加したい」「もっと横丁を盛り上げたい」などの声が子どもたちからあがったため、話し合いを重ねて「横丁楽しくしよう会(YTK)」を発足させ、新しい形で子ども参画とするなど子どもの声を事業運営に十分反映している。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	5	5
		利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4
	防犯対策	事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか	5	3	3
		施設の防犯のための工夫がされているか			
	災害への対応	緊急時のマニュアル等が整備されているか	5	3	3
避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか					
災害への対応	災害発生時のマニュアル等が整備されているか	5	3	3	
	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか				
(評価の理由) 施設・設備の保守管理については、修繕計画を作成して計画的に修繕を行っている。特に今年度は、利用者ニーズに対応するため、各部屋の床の張り替え工事を行うなど事業計画で予定していたより多くの修繕を積極的に実施している。 利用者の安全確保については、夢パークの冒険や挑戦のできるという特徴的な機能を確認しながら、構造、施工、維持管理の不備による危険など物的ハザードの除去に努めた。その際には、物的リスク・人的リスクの観点からも子どもたちの動きについて発達段階を考慮に入れ、事故がどの場所で起こるか、どのような事故防止策が必要かなどを総合的に判断するための研修・指導を独自にスタッフ全員に対して実施した。 防犯対策については、防犯マニュアルや緊急対応を各スタッフが理解できるように務め、不審者侵入防止等の取組をしている。 災害への対応については、災害時、緊急時の措置基準を作成するとともに、職員に非常放送システム、火災処理機能の教育を行い、適宜必要な想定訓練を実施した。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
		計画に基づく適切な収入が確保されているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか					
(評価の理由) 適切な金銭管理・会計手続については、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、会計処理及び金銭管理を適切に処理した。 効率的・効果的な支出については、計画に基づいた適切な収入・支出がなされている。					

注) 配点×(評価段階/5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	74	評価ランク	B
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

- A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

条例の理念の実現のため、子どもの参加の促進や子どもの居場所の確保等について継続的に特段の取組を行っている。子どもの自主的及び自発的活動を支援することにより、それぞれの子どもに応じた成長及び子どもの地域等における活動への参加の促進等に寄与しており、その事業執行は優れている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後とも、子どもの居場所を提供するとともに、子どもの自主的及び自発的活動を支援すること。特に、子どもの安全、安心には十分に配慮し、引き続き定期的に設備の点検を行うとともに、事故等が発生した場合に適切な対応が行われるよう職員への教育を実施して事業執行すること。